

平成24年度 【 学園研究費助成金B 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミキ クニヒロ
氏名 三木 邦弘

研究期間 平成24年度

研究課題名 和書等図書館資料のデジタルライブラリ構築に関する基礎的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	三木邦弘	現代マネジメント	准教授
研究分担者	福永智子	文化情報学部	教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、古文書等の図書資料を、①分類、②デジタル化、③アーカイブ化し、さらに④インターネットを用いて発信するための基礎的な「型」を作ることを目的とする。大学において所属する教員の研究成果をネット上で公開する「機関リポジトリ」は、研究成果・研究情報を広く社会に公開することとなり、その大学の学術・社会への大きな貢献となる。大学の成果物を公開する「機関リポジトリ」と、「デジタルライブラリ」は共に各大学の図書館が管轄することが多いが、システムやデータベースとしては別々に構築することが主流となっている。本研究では、本学資料に適合した「デジタルライブラリ」の基礎部分を構築したい。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ・ 図書資料・映像・音源資料をネット上で発信するためのシステムを構築し、サーバーを管理する。(三木担当)
- ・ 他大学・公共図書館等における資料の保存・活用、デジタルライブラリ構築の方法を調査する。(福永担当)
- ・ 今年度は江戸時代の庶民の読み物として最も流布し、庶民の識字率を上げた「説話集」のうち本学所蔵で素性のよい版本である「絵入西行撰集抄」と「慶安四年本 撰集抄」、庶民の教養書であった「和漢朗詠集諺解」の版本を取り上げ、デジタル化してデジタルライブラリに公開する。また、資料の保存・活用、デジタルライブラリ構築の方法を調査する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

「絵入西行撰集抄」は <http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/EiriSaigyo/>、「西行撰集抄 慶安四年本」は <http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/SaigyoSenjyu/>、「和漢朗詠集諺解」は <http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/dl/WakanRouei/>より公開している。

本研究でシステムを改良した点は、iPadなどのタブレット端末で参照する場合に対応したことである。これまではマウスでクリックしたところを拡大表示するようにしていたが、タブレット端末では画像の拡大は「ピンチアウト」(二本の指の間隔を広げる操作)で行えるため、タブレット端末からのアクセスの場合は拡大表示の機能を停止するようにした。また7インチタイプの小型のタブレットでは、次のページの表示の際にタップする(指で軽く触れる)矢印ボタンの画像が小さく表示されるために、正しくタップするのが困難になる。よってタブレットからのアクセスの際は大きな矢印画像が表示されるようにした。

毎年システムの改良を進めているが、以前作成したものにはその改良成果が適応しにくいと言う問題がある。共通部分はできるだけ集約して、版本固有の部分のみを記述すれば容易にデジタルライブラリ化できるようにコードの整理も行った。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①機関リポジトリ	②情報学の人文支援	③デジタルライブラリ	④近世古文書
⑤図書館利用者支援	⑥近世庶民文化	⑦古文書解読基礎	⑧携帯端末向 web 頁

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

今回は、図書館に所蔵される江戸時代の日本庶民文化の特徴を語る古文書・国文学作品をデジタルライブラリとし、海外の大学生やPCを持たず、携帯端末で閲覧する利用者に対していかにわかりやすく見せるかという具体的なシステム構築に力を入れたため、そのシステムに関する論文執筆にはいたっていない。また他大学の図書館の訪問調査についても、成果をまだ公開していないが、近日論文等の形でまとめたいと考えている。紀要等、韓国・台湾ではすでに印刷は保存用のみで機関リポジトリからのダウンロードが標準的な入手方法となっている。本学図書館は女子大学という特性もあり、地域の人に全面的に開放することは治安上の問題もあり望ましくない。貴重図書をネット公開するデジタルライブラリは来館できない利用者支援として今後力を入れるべき分野と考えられる。これらは今後の課題としたい。